

その日

早川中学校 二年

笠井 かさい

杏奈 あんな

今から約四年前、台風により私が住む町は
たくさんの被害に襲われた。今でも忘れられ
ない出来事として頭の中に刻みこまれている。

「土砂災害」
言葉だ。これまで何度も「土砂災害」によ
て被害を受けました。道が通れなくなったり、
学校が休みになりました。これは一年に一
度は絶対あり、これまで体験してきました。大

丈夫だろう。と思えるくらいのことであつた。
むしろ、「土砂災害」によって学校が休みに
なったりすることを楽しみにしていたくらい
だつた。

それは突然やってきました。また、いつも見た
いに雨が降って道が通れなくなつて、学校が
休みになるだろうと思つた。でも、そうでは
なかつた。四年前のその日は、そうではなかつ

た。
気がついたら足元に水が流れ込んで、

電気も使えなくなっ
 ていた。「今回はちよ
 とすぎいな」と思っ
 た。でも、ちよつとや
 との場合ではなかつ
 た。外に出てみると、
 そこは、いつももの
 町ではなかつた。一
 瞬、息が止まった。泥
 水があちこちに流れ
 ている。見る限り、茶
 色。空は灰色で、時々
 雷も見えた。「何こ
 れ……」当時の私でも
 さすがに危ないと思
 った。すぐに住民は
 ある人の家に避難し
 た。

避難するまでも大変
 だった。長靴を履い
 て、みざ下くらいまで
 たまっていた泥水の中
 を歩いていった。その
 時やつと「今回は違
 う」と確信した。

避難した先にはたく
 さん人がいて、もち
 ろも同じ地区に住ん
 でいる友達もいた。少
 し安心した。みんな
 一緒なら大丈夫だと思
 った。でも、泣いて
 いた子もいた。不安
 で外の様子が気にな
 って落ち着かない子
 もいた。やっぱ、一
 緒にいたって状況は
 変わらないのだ。

た年頃だった。そんな私でも「家は大丈夫が
 な」と考えるくらいのもので、今でもその風
 景が思い出せる。言葉にできない。こんなに
 すごい言葉を使っても、きっとその風景は言
 い表せないだろう。
 避難した先では子どもたちだけに大人がお
 にがりを作ってくれた。その時は貴重な食料
 だった。みんなお腹が減っていたのか、すご
 い勢いで食べていった。おいしく感じた。温
 かくあった。当時は遠慮なく食べていたけど、
 今思えば、大人の人みんな我慢してくれたん
 だな。感謝の気持ちでいっぱいだった。そう思え
 るのもこんな出来事があったからだと思う。
 その日はなんとかやり過ぎた。台風の次
 の日はすごく晴れた。昨日が嘘のようにな。こ
 れで一件落着く。というところ、そうではなかつた。
 これからが大変だった。
 沢に近い友達の家。庭は泥まみれになつて
 いた。きれいに咲いていた花も全てつぶれて
 しまった。いた。道路も泥だらけ。幸い私の家

は特別大きな被害はなかった。それでも、や
 ぱり失ったものは多い。見渡す限り、泥。
 きれいだった町も、もうない。木が倒れ土砂
 が崩れ私の住む町はボロボロだった。まだ通
 交止めは解除されていなく、家にとどまるし
 かなかつた。どうして台風の後には、こんな
 にきれいに晴れるのだらう。ミミとつくづく
 思った。
 それから、学校の登校班の一部はヘルメッ
 トをして登校するようになった。山の下を通
 るため、いつ土砂が崩れたりするか、わから
 ないからだ。また、ボートで登校する班もい
 た。道がふさがって湖を通って行くしかなか
 ったからだ。これがニュースになったりもし
 た。もう忘れられない出来事。当時のことをこ
 んなに覚えていて、のがその証拠だ。自分でも
 びっくりしている。幼い頃の出来事では済ま
 されないのだ。また、いつ起こるかかわらな
 い。その日は突然やってくる。だから、こ

No. _____

No. _____

そ、私たちは「その日」のための準備を
しな
く
て
は
な
ら
な
い
。もう学校が休みだとか考
え
な
い
。自分のために、この町のために。